

## 2 各訪問先での議事録

### (1) 2月18日：プロジェクト・サイトへの訪問

(9:00、ホテル発)

車両4台(DAS乗車車両、プロジェクトの車両4台、JICA事務所の車両1台、大使館の車両1台、DAS乗車車両)

(10:40、プロジェクト・サイト到着)

(11:14、会議開会)

#### ① INAT(プロジェクト管理者アルバロ・ポカメエンス)の挨拶

このプロジェクトに関して、大きな関心を持ってきた。これまでの結果については満足している。また、今後、努力することも多い。INATの長官代理として、今回の滞在中の業務の成功を祈っている。

#### ② DNP(国家計画庁マリア局長)の挨拶

コロンビア政府として、成功しつつあることを認めている。成功を延長によって大きくし、よりよいものにしていきたい。滞在が実り多いものになるように願っている。DNPに何でも必要なこと遠慮なく言ってもらいたい。申し入れたことは期待していただいて結構である。

#### ③ サレジア教会(プロジェクトサイトの土地の持ち主)の挨拶

サレジア教会は非営利の団体であり、世界中に存在する。1947年にこの土地に小学校を創設し、その後中・高等農学校となっている。サレジア教会とINATは協定を結んでおり、サレジア教会にとっても貴重な経験である。

サレジア教会は熱意を持ってこの協力を申し出るものであり、教会とINATは15年間の協定延長(無償による土地の提供)を行ったところである。これにより本プロジェクトの延長を保証することを申し入れる。本プロジェクトの目的をぜひ完遂させていただきたい。

#### ④ 日本大使館(長沼臨時大使)の挨拶

コロンビア側のプロジェクトの推進に対する努力に感謝する。中南米のリーダー国としてしっかり取り組んできている。

山間地・傾斜地が多い日本にこの協力を要請し、1991年にスタートした記念すべきプロジェクトである。

治安情勢により、計画が遅れたが、両国そろって推進中である。治安問題についてはコロンビア側およびJICA側も尽力しており、安全委員会も開催し、最大限の努力が払われてきている。

プロジェクトの進捗状況を確認し、十分な成果を達成するのにふさわしい結果を期待したい。

最後に、コロンビア側に対し、今後も安全関係の保証を期待したい。

<安全施設の確認>

- ① プロジェクトセンター2階の避難室の鉄製のドアおよび鉄製シャッター
  - ・ I N A T 側の1996年度予算（1～12月）で設置する。2月契約、4月完成予定
  - ・ 1階の窓の鉄格子は、日本側の安全対策費で1995年度設置済み
  - ・ 2階の窓の鉄格子は、1996年、I N A T 側の予算で設置予定
  - ・ 非常時用のサイレンは未設置。1996年度に設置する。費用は5万円程度
- ② プロジェクトセンターのアラームは設置済み
- ③ プロジェクトサイトの簡易無線は配置済み
- ④ プロジェクト車両の強化
  - ・ タイヤ(タイヤのチューブ内に液体を入れタイヤを銃撃されても数百m走行可能)
  - ・ 窓(シールを貼り、打撃を受けても粉々にならず、走行可能)
  - ・ 各ドアの鍵(リモコン操作による鍵の追加)

<プロジェクトの展示ほ場>

- ① 傾斜は4～6%
  - ② 第4ほ場での試験(農地保全関係:作物はトウモロコシ)
    - ・ ディスクによる耕起
    - ・ 除草剤使用
    - ・ プラウによる耕起
  - ③ 第9ほ場での試験(農地保全関係:作物はニンニク)
    - ・ 斜度(3、6、9%)を変えて土壌流亡の試験。かんがいはレインガン。
    - ・ 収量は、コロンビアの平均が3.5t/haに対し、このほ場では4t/ha
- (2) 2月19日: J I C A コロンビア事務所訪問、蔵本所長および高木次長
- ① 安全面のポイント
    - ・ 一律的なクライテリア(基準)の設定が難しい。犯罪件数が何件ならよいというふうに基準が決められない。最終的には日本大使館と連絡を取り、総合的な判断とならざるを得ない。
    - ・ 安全対策については、考えられる手段、でき得る限り万全の対策を立ててきた。これまで指摘された対策は実施してきている。考えられる対策は今後も実行していきたい。

## ② 治安に関する最近の情勢

- ・大統領の麻薬組織からの政治献金疑惑で、政情が不安定になってきている。
- ・ゲリラは力を誇示したい。
- ・一般犯罪については金目当ての銀行強盗。
- ・JICA専門家は行動の制限があるなかで、ボゴタ以外にカリおよびサンタマルタを訪問することができるが、ボゴタ→カリ、カリ→サンタマルタ間の移動は空路によることとしている。
- ・ゲリラの組織については、ELNは北部はコロンビアの北部地方を中心に活動しており、石油パイプラインを狙ったりしている。FARCは、7000人の組織で麻薬組織とかわりを持ち、これを資金源にしているといわれている。また、M19は政治的スローガンを掲げた活動が中心である。
- ・ゲリラの攻撃活動は、ほとんど夜と朝方（日の出前）に行われている。
- ・誘拐は大金持ち、危険地帯（石油のある地域等）の外国人が狙われやすい。
- ・ゲリラ活動の最近の傾向としては、政治的スローガンが少なくなっていることと、北部の農業地帯（大規模プランテーション地帯）、インフラ（石油パイプライン等）をターゲットにしてきていること。
- ・東芝の誘拐事件は、入ってはいけない所で起こったものだ。事件は起こるべき所で起きている。都市でのゲリラの大規模な動きは無理であろう。

## ③ 安全面での留意事項

- ・ボゴタ市内では、セントロの繁華街、およびさらに南の地域では、飲酒がらみの喧嘩や一般犯罪が多いので避けるようにしている。車で移動する分にはそれほどでない。しかし、1人では行動しないようにしている。
- ・通勤については、時差通勤、ルートを変えるなどの工夫をし、ワンパターンを避けるようにしている。

## ④ 生活面

- ・物は豊かで特に不自由はない。
- ・行動に制限（訪問地域の限定、夜間（10：00以降の外出制限））があるのはやむを得ないこと。レクリエーションとしては、スポーツクラブ、プール、ゴルフ等があげられる。
- ・日本人学校があり、警備は厳重にしている。

## ⑤ 治安面の対策

- ・1996年3月にインマルサット（海軍衛星）通信の電話2台を導入する。
- ・プロジェクトサイトでは3月はじめに電話を設置する。

・プロジェクトサイトのサイレンについて

これまで設置していないのは、すでにアラームが設置されシルバニアの警察につながっていることと、めだつためであるが、早急に設置することとする（プロジェクト専門家）。

・コロンビア全体の犯罪件数は減っていない。

・プロジェクト専門家の現地での宿泊について

（所長）プロジェクト専門家が活動促進のために希望している現地での宿泊については、宿泊前の問題として、移動回数の増加を要望しているが、好転している状況がなければ困難と思われる。

（リーダー）通勤による時間のロス（今回の調査団の往復時間は4時間（1：30＋2：30））が多く、また、標高差が約1000mあるため1日での移動は疲れる。

（リーダー）ボゴタ→シルバニア間の道路は、主要幹線道路であるため交通量が多く、ゲリラとの遭遇よりも交通事故のほうの危険性が高い。

・近年、ゲリラはスローガン掲げることが少なくなっているが、農地の70%以上が傾斜地であり、小農の対策を行っているINATの意義をゲリラも認めている。INATには多くの地方事務所があるが、これまでゲリラによる被害は受けていない。

・INATは、プロジェクトの位置づけを高く評価しており、プロジェクトに対する期待は大きい。

(3) 2月19日：在コロンビア日本国大使館訪問：長沼臨時大使および馬場書記官

① 長沼臨時大使の話

・プロジェクトサイトのシルバニアには初めて行った。道路は交通量が多く、危機感があまりなく、別荘地である。危険があまりないから別荘地として成り立っているのであり、このプロジェクトサイトは安全面からいえば理にかなっている。

・コロンビア側のこのプロジェクトに対する熱意は、ハイレベルである。本評価調査の結論もこの熱意を考慮してもらいたい。大使館としては、できれば継続してほしいと考えている。

② 治安関係の情報

・麻薬の原料はペルーおよびボリビアから持ってきている。国境は管理できないのが実情である。

・内政については、大統領が国会で追及されている。4月に大統領が日本に公式訪問を予定している。内政の状況がすぐにゲリラ活動に結びつくとは思われない。サンペール大統領は、現在、麻薬組織からの政治献金疑惑のため不利な状況にな

っているが、社会・経済政策および麻薬の取り締まり対策では、これまでできなかったことを実施し評価は高い。麻薬関係では、首領など幹部の多くを逮捕してきている。学生は全体的な状況がわからず騒ぐかもしれないが。

- ・国会議員の多くが麻薬組織からの金が入っているといううわさはある。
- ・JICAの無線（プロジェクトサイト、プロジェクト車両、専門家JICA事務所等共通）は大使館の領事（治安担当）の部屋に置き、常にONにしている。
- ・治安情報は、大使館の政務班が担当し、ゲリラの情報等常に把握するようにしている。日本の協力については、金持ち層ではなく収入の低い層を対象としていることから、ゲリラ側にマイナスの印象は持たれていない。
- ・安全対策委員会は、DNP（国家計画庁）、DAS（国家治安局）、プロジェクト、大使館、JICA事務所が参加し実施している。これまで、事実上プロジェクトのために実施されてきている。この1年間に（1995年2月以降）これまで3回実施している。安全対策委員会の位置づけは明確で、新たな対策についても電話1本で行動してもらえらる状況である。
- ・ balan キージャ、カルタヘナへの移動の際にも、DASから2名ずつ警護に付いた。
- ・これ以上の治安対策はないのでは、と考えている。
- ・カルテルは小グループの集まり。メデジンカルテルはすでに崩壊しているが、カリカルテルは首領が逮捕されているものの、依然、大きな組織として機能している。
- ・麻薬の原料産地はボリヴィアおよびペルーが主であり、コロンビアは精製が中心であるが、最近ではボリヴィアおよびペルーの精製技術（イスラエルの技術）が向上してきている。

### ③ 大統領の麻薬疑惑関係

- ・麻薬献金疑惑の事態がさらに問題化し、かつ大統領が政権に固執した場合は、政府要人が暗殺される可能性がある。この場合も特定の人物である。現在のカリカルテルの幹部は、資金力、能力もあり無差別テロはあまり考えられない。

### ④ ゲリラ活動関係

- ・最近、都市ゲリラから多くの武器を押収しており、当局の情報力の向上またはゲリラの復讐力の低下が起きているものとみられる。
- ・ゲリラに対する麻薬組織からの資金は少なくなってきており、ゲリラの力は弱まってきていると思われる。
- ・過度の安全対策は必要ないが、油断は禁物である。

- ・外国人の誘拐は、北部のグアヒラ地域やジャングル地帯、石油やガスを産出する地域で発生している。危険地帯に人を送り込んでいるのが問題。E L Nの標的となりやすい。資源の略奪というゲリラにとって大義名分が成り立つ。
- ・民間企業、特に商社関係には、石油には手を出さないほうがよいといっている。日本の商社はこれまで手を出していないが、今後、可能性はある。
- ・これまでの日本人を巻き込んだ事件（東芝、マツダ）は襲われて当然ともいうべき場所で襲われている。民間企業は、行動を制限していたら商売にならないことはわかるが。
- ・統計的にみると、殺人の数は年間4万人とあまり変化はない。殺人の数の多い具体例として次のようなこともあげられる。

北部の地帯（パナマ国境方面）では、バナナ等のプランテーション栽培が広く行われているが、地主が労働者を使い他の農園を襲撃する事件が多く、これが死傷者を増やしているひとつの要因となっている。地主はボゴタ等の大都市に住み遠隔操作している。ときにはこれがゲリラの犯罪として扱われることもある。

- ・米国大使館は、自国と利害関係が非常に強い麻薬には多大な関心を持つが、ゲリラの活動にはまったく関心を持っていない。
- ・（プロジェクト専門家）シルバニアでのプロジェクトの活動は、農学校の敷地内の活動でもあり、ゲリラ側は把握しているものと考えられる。これまで攻撃に合っていないのもターゲットから外れているからと思われる。メタ県（ゲリラ活動の激しい地域）の I N A T 事務所の職員がゲリラの検問にあったが、問題とならず、I N A T の栽培技術支援活動はゲリラ側に了解されている。また、ボゴタ～シルバニア間は主要幹線道路であるため非常に交通量が多く、仮に狙うにしても困難と考えられる。現在考え得る対策はすべて実行している。旧道は、交通量が少ないので、緊急時以外は利用しないようにしている。

(4) 2月19日：DNP訪問：マリア局長および担当2名

① マリア局長

- ・昨日、現場でプロジェクトを見ることができた。
- ・1995年の大きなテーマは安全問題であった。1996年9月に終了予定だが、さらに続けることを希望する。これまでの協力状況に非常に満足している。さらに強化していくことを希望する。
- ・安全の問題に関しては、23日の9：00から安全委員会を開催する。警察の調査部門、外務省、大使館も参加する。コロンビア政府として、日本人専門家の安全を

十分考えていく。

- ・DASの調査部門は、幸いにして、シルバニアの治安はよいとの判断を下している。プロジェクトサイトの近くに別荘が多いのも、金持ちが週末を過ごしており、治安がよい証拠であろう。
- ・安全に関しては、よい兆候があるわけだが、これでよいと思っているわけではなく、今後も力を注いでいく。安全の問題に関しては、23日の安全委員会のときに現況調査の結果および意見を出してもらいたい。
- ・今回の評価調査に関して、DNPとしては、評価チームのメンバーとしても参加していく。
- ・延長を希望する理由としては、CECILプロジェクト内での技術移転の不足を補うこと、成果を広く移転すること等があげられる。
- ・日本側の希望があれば協力するので申し入れてほしい。

(5) 2月19日：INAT訪問：前長官および養成開発部長

① 前長官挨拶

- ・日本の協力に対して高く評価している。農民に協力するという戦略的に重要なプロジェクトである。したがって、こちらとしても近年、力を注いできている。しかし、不足している部分もある。評価ミッションとして、コロンビア側の努力を評価していただき、計画を達成するための延長を希望する。
- ・現在までの研修コースは、非常に満足している。研修参加者154名、技術的なプロジェクト訪問252件、セミナーへの参加60件等。
- ・離陸するには不足のところもあるが、成功してきている。日本側の援助プログラムを高く評価している。
- ・日本が安全面について重大な関心を持っているのは承知しており、コロンビア側としては、あらゆる努力を払ってきている。現状をみれば、日本人専門家の危険がなく、住民が愛情を持って歓迎していることがわかるであろう。
- ・結論としては、基本的には非常に成功したまれにみる例であろう。コロンビア政府としては、農民の技術、平和につながると理解している。これまでの成功をもっと強化するために協力期間の延長をお願いしたい。コロンビア側としては何事にも協力する。

② 竹内団長挨拶

- ・長官のおかげでこれまでうまくやってきた。安全面での配慮を感謝している。優秀なカウンターパート、スタッフが働いているのもINATのおかげと理解できた。

- ・大成功との評価大変うれしく思う。今後の強化については、仕組みの原則を考慮しながら評価していきたい。
- ・金曜日の安全委員会、来週の月曜日に合同委員会で、報告していきたいと考えている。

③ 前長官

- ・コロンビア側の評価団長は養成開発部長であり、皆さんと一緒に評価する。評価調査の成功を祈っている。

(6) 2月20日(午前)：合同評価会でのコロンビア側評価団長(INA T養成開発部長)挨拶

- ① INA Tを代表して、日本側チームを歓迎する。日本への訪問時には大変温かいもてなしを受けたことに感謝している。
- ② C E C I Lの重要性は増してきている。C E C I LはINA Tのなかに地位を確立し、組織図の中に入れられた。
- ③ 評価調査は重要であり、意見交換を十分行いたい。C E C I Lの持つ影響力は大きくなってきており、延長の要請を行ってきた。今回の結果に期待している。
- ④ しかし、仮に9月に終了した場合でも、プロジェクトを継続していくことは確信している。プロジェクトが永続性を持った証拠として、プロジェクトサイトの土地を所有しているサレジア教会とINA Tとの間で15年間の契約延長を行ったことがあげられる。
- ⑤ コロンビア側のプロジェクトの管理部門は、ボカヌメンとベガが担当、技術部門は各カウンターパートが担当しており、しっかりした体制となっている。









JICA